

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0590100574		
法人名	有限会社ルーク		
事業所名	グループホームソフトハンド浜田		
所在地	秋田市浜田字自在山47番地9		
自己評価作成日	令和2年8月9日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.akita-longlife.net/evaluation/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 秋田マイケアプラン研究会		
所在地	秋田県秋田市下北手松崎字前谷地142-1		
訪問調査日	令和2年9月18日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

生活保護受給者も全室対応となっていて利用される方の負担が最低限である料金体制となっています。「誰でも利用できること、安心できるサービス提供」ができればと考えています。同法人の経営するソフトハンド勝平と茨島の連携を密にし、団塊の世代にも対応すべく個別ケアを重視し、外出を多く取り入れたり、余暇活動でゲームなども行い、DSの要素も担うように取り組みを行っております。個々の得意分野を把握し、それぞれの役割を考慮し仕事を担ってもらうことで、意欲を持って生活してもらうことに取り組んでいます。今年は、季節の花をプランターに植えたり、畑を実施するため苗を購入しに行き、好きな花などを選んでもらい、利用者様と一緒に園芸作業をすることが出来ています。また、ホーム内は家庭的でアウトホームな環境が売りで、馴染みやすく穏やかに過ごしやすい空間を提供できていると思います。認知症の進行を遅らせるため、頭や手を使う『遊び』ができるように用具と一緒に手作りしながら、暇を持て余さない工夫をしています。設備の特徴としては重度者を介助できるよう特殊浴槽も完備し、入居者様・ご家族等が無料で利用できる宿泊設備(ゲストルーム)も完備しており、遠方からいらっしゃる家族に喜ばれております。このような日々の内容もホームページにてブログ形式で公開され、ご覧になった方々にホームをより身近に感じて頂ければと思っています。また平成30年11月に「秋田県認証評価」を取得しています。また「秋田市元気な子供のまちづくり企業」にも登録されており、社員の子供も高齢者とともに過ごすことができている。利用者様が作ったマスクやコースターなどを包括支援センター等に寄贈し、社会の役に立つような取り組みも行っていきます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

職員は利用者の性格を理解し、できることを役割として行っていただいてホームでの生活に反映させています。新型コロナウイルスの影響で気軽にできないことが増えていますが、一定の制限を設けながら面会、ドライブを実施しており、利用者の行きたい、会いたいという思いに可能な限り応え、感染予防対策を十分に行った上で気分転換も図りながらストレスをためないで過ごせるよう取り組んでいます。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~53で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
54	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	61	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
55	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	62	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
56	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	63	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
57	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	64	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
58	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
59	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
60	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、代表者と管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域との連携を含んだ事業所理念を各事業所で周知し、職員全員が理念の元ケアを行っていけるように指導している。 ・会議等での周知。 ・掲示物での周知。 ・資料配布での周知。	研修でも取り上げ、職員は理念の意味を理解して実践に繋がっています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会や施設行事への参加も多くあり交流できている。 ・近所の床屋の利用 ・地域住民参加の行事への参加。 ・民生委員との交流 ・小学校との交流(行事参加、授業引き受け。) ・認知症患者を見守る会への参加。	新型コロナウイルスの影響で行事等の中止があり、小学校や地域との交流ができない状況ですが、近所の床屋さんに出かけたりしてできることを続けています。	
3		○事業所の力を活かした地域とのつながり 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に伝え、地域貢献している	ご家族には外出する場合など、家族団欒の邪魔にならないよう事前に介護のポイントをアドバイスをさせて頂いている。また、気軽に介護の事を相談できるように心がけている。地域の方々に対しては運営推進委員会を利用し、介護施設の勉強会をしたり、相談の有ったケースに対しお役に立てる情報を提案等させて頂いたり、出来る限り専門分野で貢献できるようにしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	委員会では、家族の参加は少ないものの他施設職員の参加もあり、別視点からの色々な意見が聞けるようになってきている。気兼ねなく話し合いができる雰囲気運営できており、頂いた意見を踏まえ今後のケアに活かすようつとめている。 ・地域のお店や楽しむことの出来る場所など提案 ・事業報告させて頂いた内容にアドバイスを頂く ・スケジュールに沿った勉強会の実施 ・地域連携として災害・緊急時の対応を地域の消防団を招いて話し合っている。 ・利用者家族からのアンケート ・夏祭りの計画	定期的には開催されていましたが、現在はホームの現状を文書で報告しており、参加メンバーとは電話や書面上で意見交換しています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	常日頃からの報告の他に、気軽に相談しアドバイスを頂けたりと、市町村と共に地域包括支援センターとの連携も出来る限りしている。またグループホーム連絡会などでも市役所職員を招いて講義をして頂いたりと協力して頂いている。	市の担当各部署とは生活保護受給者の対応や新型コロナウイルスの対応策について相談したり、包括支援センターからは、利用者が参加できる情報が提供されています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束についてマニュアルの整備をし、新任研修でも全職員にその意義を理解出来る様に伝えていくと共に、年間スケジュールにより施設内研修を行って身体拘束廃止ケアに取り組んでいる。毎月職員会議にて身体拘束に当たる行為がないか全員で確認するようにしている。	毎月の会議で話し合い、スピーチロックについて、また、職員の対応を確認して身体拘束のないケアに取り組んでいます。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることのないよう注意を払い、防止に努めている	虐待マニュアルの整備をし、年間スケジュールにより施設内研修を行い、虐待防止に取り組んでいる。職員一人ひとりが理解を深め、より徹底したサービスになるよう指導をしている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	行政書士と連携し、必要性のある利用者様やご家族に対しパンフレットなどを利用し活用するように務めている。後見制度を利用している利用者の成年後見人との連携を密にとり、本人の情報を共有している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時にも退所時にも文書の確認と共に充分に説明できている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議でのアンケート調査や相談窓口にて意見を気軽に出して頂けるように務めている。要望意見等は、日々の記録に特記事項として残し、スタッフが周知できるよう努めている。プラン見直し時や作成時、本人の状態急変時などに家族と話しをし、施設でどのようにケアを展開していくか明確に伝えている。また、家族や本人と相談することでケアの確認をしている。	感染予防対策をした上で面会を可能にしており、電話連絡も頻回に行き意見を聞くことができています。写真を使用して状況を報告することで在宅時との変化を知っていただき、家族には喜ばれています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月2回の会議と申し送りも含め、職員が自由に発言しあい、職員中心で進めていくものとして意見交換の場を設けている。その時その時で疑問に思ったことや気づいたことなどを当日職員間で話合えるため、気づきにつながることが多い。	職員からの意見、提案を協議し、職員体制の改善に向けて取り組む等、運営に反映させています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	キャリアパス要件の導入を行い、皆が目標を持てるように、また、業務分担とは別に個々に合わせた業務を与え意欲をもってもらうための配慮をしている。その他に職員が業務内容を自主的に話し合い、業務時間の検討など、お互いに環境を整えられるように務めている。また、公休と合わせ会社内特別休暇も皆で自由に取れるように支給してお互いに休めるようにしている。「秋田県認証評価」を取得しその項目内でも十分な環境が整えられているとの評価を頂いている。 ・人員が多く子育て中でも気を使うことなく働ける環境であると職員からの意見がある。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、代表者自身や管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	年間の施設内研修の他、月別目標と称して、自己評価内容を参考に一人ひとりの意見を文書で出し合い意見交換し、ケアに対しての標準化とスキルアップに繋がるようにしている。また、研修費なども交付し、施設外研修に参加してスキルアップ出来るよう手助けしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、代表者自身や管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市のグループホーム連絡会に参加する事で、ネットワークを作ることができている。職員同士の意見交換や、施設見学なども実施して勉強している。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所以前からの情報を本人や家族に対し聞き取り調査を行い、職員間で周知している。また入所生活の中で要望や悩みに柔軟に対応できるよう、常に会議や申し送りをしながら情報を照らし合わせ、職員間で対応を統一し、関係が良くなるように対応している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所初期は特に細かい報告もさせて頂くようにしている。ケアプランにも入念な打ち合わせを行った内容を記載し、会議等でも内容を周知し確実にくみ取れるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
17		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員が共に暮らすものとして、日々の日課づくりに努め、掃除・洗濯物などその方その方のできることを協力し合えるようにしている。本人の主体性を大切に調理や園芸のアドバイスを頂きながら、十分にできることを発揮してもらえる機会をつくり、役割づくりを担っている。		
18		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	サービス開始時より認知症ケアとして家族の協力が大切だということを常に家族へ伝えている。帰宅要求のあるときは付き添いで外出や外泊の出来る様に協力して頂いたり、本人が家族に連絡を取りたいときは自由に電話をかけられるように家族から承諾も得て絆を大切に作る配慮ができています。本人の状態を定期的に報告しながら、家族様と一緒にケアを考えながら協力して頂ける関係を保っている。		
19	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの人や家族との交流をできるだけ手助けしたいと考えています。全事業所の共通設備としてゲストルームを開設し、遠方からいらっしゃる方が泊まる事が出来る宿泊設備を備えています。各施設の入居者であれば無料開放し、多人数の面会時にも利用して頂いています。また、馴染みの場所に個別に外出したり、馴染みの人に電話することを促進し、面会時に家族等に写真を持参して頂き会話の種になるようアドバイスしている。行事ごとでも家族参加型の行事を検討したり、繋がりが途切れないように配慮している。	友人や家族に会ったり、墓参りに出かけたりしています。入居時及び入居後のアセスメントで馴染みのものを引き出し、家族の協力を得ながら可能な限り個別の希望に沿って継続できるよう支援しています。	
20		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ホームの生活の中で、利用者同士が共に暮らすものとして協力し合えるように、日々の日課の作業や余暇活動を通してより良い関係を築けるよう集まる時間を作っている。お互いの出来ることを確認し合う場となる様に配慮し、個人に合ったレベルで助け合いが出来るようにしている。人間関係の修復のために席を配慮したり、普段あまり交流のない関係ではゲームや外出時などに配慮し、交流できる場面を作る様にしている。		
21		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所した入居者様にも、以前サポートして頂いた支援センターに状況を確認したり、しばらくの間、入院先に面会に行ったり、家族に状況を聞き取りしてアドバイスしている。その他の退所者に対しても次に過ごす場面でケアを実施されやすいように情報提供し支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
22	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人が話した内容を記録に残し、その中の意向を申し送りや会議で取り上げ、スタッフ間で確認し、全員が本人が把握するように努めている。本人の思い通りにいかないことも多い中、少しでも笑顔になれる環境作りを心がけながら、施設生活だからできる楽しみ作りを担っている。	日々の暮らしの中で気づいたことや会話から意向を把握するようにしています。都度メモしたり、申し送りを通じて情報の共有を図り、本人の意向に沿えるよう取り組んでいます。	
23		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、生きがい、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所段階で家族・CM等に詳しい状況を聞き入れ、スタッフ間で周知しケアに当たっている。入所中、スタッフが日々の会話や訴えを傾聴し、個々に発見した情報を申し送りや会議内で交換している。		
24		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	24時間の生活の中で、本人の行動や訴えなどを、スタッフ間で密に話し合うことで個々に把握できるようにし、日課や余暇活動などの作業や訴える内容を共有しながら観察に努めている。		
25	(10)	○チームでつくる介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	会議内のモニタリングを通して、課題を職員全員から聴取し検討している。全職員が責任を持ち対応しプランに意見を反映している。本人、家族の意見、介護職員の意見の他にも主治医、訪問看護、薬剤師など相談できる職種へ繋ぎプランを作成している。	職員それぞれが利用者全員のモニタリングを行い、カンファレンスでの話し合いを経て本人、家族の意向が反映された介護計画を作成しています。	
26		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人に対する問題点や対応していることを意見交換し、記録に残し共有している。それらを実践した情報も介護計画に取り入れるようにしている。日常の特記事項など気づいた職員が記入し、日中、夜間中の記録も濃いものになっている。重要な連絡事項は口頭だけでなく、連絡ノートを活用し休んでいた職員にも情報共有できるようにしている。		
27		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	外出する先の公共施設やお店、知人や家族も含み、その個人が生きてきた土地の風習や言葉、行事、歌などを通してその人の当たり前な暮らしが出来る様に支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28	(11)	○かかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局等の利用支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局等と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	サービス利用前にかかりつけであった病院も本人と家族に確認し、希望があれば継続受診できるようにしている。また、新たに受診したい病院があればその相談にも応じている。また、薬剤師にも常に相談できる体制を持ち、早期対応を心掛けている。	受診は本人、家族の希望に沿って対応しており、職員が通院介助を行っています。	
29		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	外部訪問看護との連携により24時間オンコール対応をいただいている。受診往診の予定を組み、定期的に診察を行ってもらえるよう支援している。また医療関係者間の連絡調整についても、介護職員一人ひとりが相談、連絡できる体制を築いている。		
30		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院した場合は本人と家族の不安を解消するため相談援助を行い、また付き添いができない、生活用品が運べないなどの相談に対してはお手伝い出来るように対応している。入院中も早期の退院になる様に医療機関と情報交換し、また長期入院が予測される場合も、認知症の進行により職員の顔を忘れないように、入れ替わりで面会したりと、安心をしていただけるように努めている。退院して再入所してからも変わらずに対応できるように病状聴取をこまめに行うよう配慮している。		
31	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	医師の診察結果にて状況の変化があれば、早い段階から家族に説明している。重度化に伴った指針を掲げ、医療連携体制として、24時間対応で往診して頂ける医療機関との契約がされ、重度化に伴う対応が出来るようになっている。運営推進会議内でも緊急時の対応として、地域包括支援センターなど他機関にもアドバイスを頂けるように配慮している。	終末期の支援体制を整えおり、状態変化時には医師が家族に説明し、希望に沿った支援が行われています。看取りを希望される場合には家族の協力を得て看取りケアが行われています。	
32		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の実践訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急対応マニュアルを元に研修会議等を行い、また救急隊による『119番出前講座』にて研修してもらするなど研修機会を設けている。AED操作の訓練や連絡各所の明確化も行っている。		
33	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の避難訓練にて継続的に避難体制を確認している。推進会議で取り上げ、地域の浜田消防団への参加も募り、災害緊急時の協力できることを確認している。	発電機の作動訓練も行われ、全員が操作できるように訓練を重ねていくことにしています。地域の消防団がアドバイザーとなって訓練に協力することになっており、協力体制を築いて災害対策していけるよう取り組んでいます。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
34	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	新任研修や会議・月別個人目標にも取り上げ、重視して対応を統一できるように指導している。一人ひとりの行動を把握することで、さまざまな場面でさりげない介助に務め、自尊心を守るように配慮している。	職員と二人きりで話したい時、排泄時や入浴時の配慮等、一人ひとりの思いを尊重して対応しています。	
35		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人の思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	なるべく自己決定して頂くため、その人の好きなことやしたいことなどを定期的に意向確認し、できることは実施していけるように職員間で検討しているまた、希望、決定が言いやすいよう、されやすいように食事メニューや外出先、余暇活動の内容なども含め物事に選択肢を幅広く持つよう配慮している。		
36		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	「海に行きたい」「ドライブに行きたい」「畑やりたい」などの訴えもできる限りかなえられるようにスタッフ間で業務の分担を行い、希望に添えるように心がけている。		
37		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している ※認知症対応型共同生活介護限定項目とする	性別にあわせた身だしなみができるように、着たい衣服を本人を相談し決定したり、朝の洗顔・整髪・口腔ケア・髭剃りの声掛け介助などを行っている。服や化粧品を買いに行く・床屋などの外出支援や、髪染を職員が支援したり、若々しく生活できているお手伝いを行っている。年に一回お化粧品体験などを通じて普段ろ違う自分を楽しんだりもしている。		
38	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事メニューを工夫したり、利用者の意見を聞きながら食べたいものが食べれるように支援している。季節の食材を取り入れたり、一緒に食事作りをしたり、食材を購入しに行くなどをしながら、食事を楽しめる工夫をしている。	季節の食材や利用者の希望を取り入れて献立を決め、利用者は調理や盛り付け、お皿拭き等、できることに意欲をもって参加しています。	
39		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう状況を把握し、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量水分量を把握しながら、既往歴と共に適切な量を医師に確認している。野菜をふんだんに使ったり、いろいろな食材を使用することでバランスが偏らないメニューになるように努めている。		
40		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔内清潔を保持するため、往診歯科医の治療とアドバイスの下で対応し、チェック用紙に記入しながら毎日の口腔ケアの確認をして清潔を保っている。本人ができるところは見守りし自立を促しながら対応している。また、口腔機能の健康も大事とし口腔体操も毎日行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	その個人に合わせて、オムツはなるべく使わない方針で、排泄の時間帯をチェックしその方のペースを守り排泄できるようにして布パンツをはいて過ごせるようになった入居者もいる。また、密な様子観察することで、便意、尿意のある様子を把握してトイレ誘導出来るようにしている。トイレの場所も分かりやすいように手作りの表示をしたり、なるべく一人で行けるように配慮している。	その人の状況に合わせて排泄用品を使い分け、排泄パターンを確認しながら自立に向けた支援に努めています。	
42		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	できる限りでバランスのとれた食事から排便ができるように、旬の野菜を含む食材選びをするようにしたり、適度に体操などを行ってもらい、自然排便を促すように努めているが、必要に応じて看護師に相談しながら定期的に排便できるように働きかけを行ってもらっている。		
43	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングや健康状態に合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	希望される日や時間帯の入浴サービスを基本としており、失禁が見られた場合にはシャワー浴や清拭で清潔を保ってもらっている。また、同性介助の希望にも応え、マンツーマン対応でゆったりと入浴して頂けるようにしている。	午前入浴を基本としていますが、午後の希望にも応じており、特浴の設備も整っています。	
44		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	今まで使用していた寝具を持参して使用していたり、定期的な洗濯や布団干しなどで清潔で心地良く、安心して眠れるように配慮している。眠れない方には無理に寝せるのではなくホールで自由に過ごしながら、温かい飲み物を提供したり、話し相手になってあげたり、自然に寝付けように配慮している。日中はその人その人に合わせながら、休息をとりつつも昼夜逆転にならないように活動時間を作ったり、日光浴や外出などで気分転換をしながら活動を増やせるように努めている。それでも睡眠障害などの症状がある場合は医師の指示を仰ぎ対応させて頂いている。		
45		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解に努めており、医療関係者の活用や服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	医師の指示も含め、服薬内容を確認するための勉強会を開いたり、新しい薬に対しても皆で把握できるようにしている。また薬剤師にも気軽に相談できる体制を持ち、看護師主体に確実な支援ができています。		
46		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日課を持って、活気のある生活になるように努めている。食べたいもの行きたいことなど利用者の意見を聞いて反映したり、また買い物と一緒に出掛け食べたい物を聞きながら買い物している。食事も含み余暇活動、行事なども利用者の誰かに合わせたものとなるように生活歴や趣味などにも配慮し対応している。また、個別支援についても、個々に行きたいことややりたいことが違うため、その人その人に合わせて意向が叶うように、意向を定期的に確認し検討し実施している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
47	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している ※認知症対応型共同生活介護限定項目とする	希望がある方にはなるべくできる範囲で行きたい場所に出出したり、希望を話せない人にも色々な場所に出かけ綺麗な景色を鑑賞したりし、気分転換できるように努めている。秋田市以外でも行事予定を立て、見たことがないところに連れて行くようにスタッフ間で行事立案者を決め、予定を組んでいる。	感染予防対策として食材の買い物に同行することは現在行っておりませんが、頻度は少なくなったもののドライブに出かけて気分転換に努め、3蜜を避けた外出支援が行われています。	
48		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人のお金の預かりをしていないため自分でお金を使う感覚を味わうことができないものの、必要なものがあれば一緒に店に購入しに行き、商品を選んで決めることの支援は実施している。		
49		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	遠距離の家族等でも自由に連絡をとれるように本人や家族に話し、連絡をとれるようにしている。手紙のやり取りもできる方は自分で書いてもらったり、できない人には施設で書くことの支援をするなどしている。		
50	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、臭い、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	危険箇所の除去を徹底し、定期的に清掃や換気を行い過ごしやすい空間作りをしたり、適切な気温や湿度で生活できるようにスタッフが温度計を定期的に確認している。台所や浴室、トイレについては安全と清潔を重視し配慮している。季節の花を飾ったり、季節に合わせた掲示物を掲示するなどし、居心地の良い空間作りに努めている。	利用者が楽しく、興味をもって取り組めるものを考えて職員と一緒に作品作りが行われ、壁には多くの作品が飾られています。介助しやすい位置に浴槽が設置され、安全に配慮された浴室となっています。	
51		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている ※認知症対応型共同生活介護限定項目とする	ホールはいつでも利用できる様に自分の場所があり、仲の良い人同士で話しこめる席順を考えて配置している。独りになりたい時や相談がある場合など使用できる多目的室や面会室も設備している。		
52	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ベット、クローゼット以外の家具全てを本人が使っていた物、家族が選んだ物を自由に配置して好みの部屋を作って頂いている。また、模様替えの希望も本人の希望を叶えられている。安全面を重視し配置の変更をしなければいけない時などは必ず相談の上行っている。	持ち物は利用者が自由に持ち込んだものを使用しており、本人が使いやすい部屋となるよう相談しながらレイアウトしています。	
53		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレの表示を工夫したり、自分の部屋が分かるように工夫したり、安全に行動出来る様に危険箇所の把握と除去に努め、見守りとさりげない援助をしながら出来るだけ一人で行動できるように配慮している。		